

## 国分寺中学校区

### 【目指す子ども像】

- 学び合い高め合う子ども
- 主体的に人や社会に関わる子ども

### 【実践研究課題】

学び合いを支えるコミュニケーション能力の育成

## 各部会の取組

### <学習指導部会学力向上チーム>

#### 【児童生徒の実態】

- ・課題にまじめに取り組むことができるが、自分で課題を設定することについては、個人差がある。
- ・読書量に個人差が大きく、読書習慣が身に付いていない児童生徒がいる。

#### 【部会のねらい】

- ・「家庭学習協調週間」「家読」を通して、家庭学習の方法や生活習慣の見直しを保護者に啓発し、家庭学習の充実を図る。
- ・自分で設定した課題に取り組むことにより、自己肯定感や主体的に学習する態度を高め、学力の向上につなげていく。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	<B> 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国分寺中学校の定期テスト期間に合わせて「家庭学習協調週間」を設定する。</li> <li>・家庭学習協調週間は小中同時に行うことで、家庭全体で取り組む機会とする。</li> <li>・家読を実施し、読書活動の活性化につなげる。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家読や家庭学習協調週間を設定することで、期間中、めあてやカードのチェック項目を意識しながら取り組むことができた。</li> <li>・家読では、カードに具体的な活動を示すことで、活動の選択の幅を広げることができた。</li> <li>・冬休み中などに家読を実施したが、家庭で余裕をもって取り組むことができ、有効だった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてや学習内容の設定に個人差があるので、めあてや学習内容の設定の仕方などを工夫する必要がある。</li> <li>・家庭学習協調週間も家読も、読書習慣や学力の向上に繋げるため、継続した取組としていく必要がある。</li> <li>・家庭学習協調週間と家読の時期が集中しているので、時期の検討が必要である。</li> </ul>

### <学習指導部会授業研究チーム>

#### 【児童生徒の実態】

- ・明朗で礼儀正しく落ち着いた態度で学校生活を送っている。学習に対する意欲が高く、学習課題について友達を協力し、考えを深める姿勢が身に付いている児童生徒が多い。

#### 【部会のねらい】

- ・義務教育9年間の学びをつなぐ、揃えることで、安心感をもって学習に取り組む、教育的効果を向上させる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	<B> 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝える力、聴く力を高めるための具体策の研究。</li> <li>・対話的な学びを助けるための教具(ツール)と板書例のデータの蓄積と共有。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究チームでは、道徳の連続性を確認し、先生方の板書データを蓄積、共有することで先生方の授業研究に役立てることができた。</li> <li>・「伝える力」「聴く力」を高めるための具体策について、現状の取組を確認することができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの学校で行っている「伝える力」「聴く力」を高めるための具体策をどのようにつなげていくか、課題として残った。</li> <li>・各校の学校課題への取組については、成果を共有するところまではいかなかった。それぞれの研究を共有できるよう、工夫改善したい。</li> </ul>

## <学習指導部会特別支援チーム>

### 【児童生徒の実態】

- ・障害の特性や個々の差が大きいが、コミュニケーションについての課題のある児童生徒が多い。
- ・メタ認知能力が低く、自己肯定感が低かったり、過大評価し過ぎていたりする児童生徒が多く、会話力に課題見られる。

### 【部会のねらい】

児童生徒一人一人の持てる力を高め、自立や社会参加に向けた主体的な生活ができる力を育てていくために、小中間の連続性のある支援や教育活動の確保を図る。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	<B> 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた基本的なコミュニケーション能力の育成を目指した活動の実践報告を通して、教育活動のプログラムを共有し、小中間での連続した指導につなげる。</li> <li>・小中学校の教員間、児童生徒の間、学校と保護者間における情報交換を通して相互理解を深めることにより、小・中学校の滑らかな支援の継続を推進していく。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間活動計画に児童生徒間、学校と保護者間における情報交換の機会を位置付け、計画的に実施することができた。</li> <li>・中学3年生と小学6年生の交流を行い、中学生から生の声を聴くことができた。小学生は、中学進学に対する前向きな心構えができた。中学生は、学習の成果を発表する機会となった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中間の連続性のある教育活動の実践を目指し、プログラムや情報の共有、情報交換の方法について検討し、実施していく必要がある。</li> </ul>

## <児童生徒指導部会>

### 【児童生徒の実態】

- ・基本的な生活習慣は身に付いている。
- ・同学年の中でも、大人びた考えや行動をする児童・生徒もいれば、年齢より幼い考えや行動をする児童・生徒もいる。

### 【部会のねらい】

異校種、異年齢の相手との交流を通して、お互いに対する理解を深めるとともに、時と場に応じたあいさつや葉遣い、話の聞き方や伝え方など、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成を目指す。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	<B> 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生と中学生でオンライン交流を行い、小学生の質問に中学生が答え、小学生の中学校進学への不安を解消する。</li> <li>・中学校生徒会新聞を各小学校に掲示し、中学校についての理解を深める。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回のオンライン交流を経て、オンライン交流だからこそ、より相手に分かりやすい伝え方を考えたり、相手の話を集中して聴いたり、伝えたいことを理解しようとする姿勢など、お互いのコミュニケーション能力は確実に高まった。</li> <li>・小学生は中学校に対する不安な気持ちが解消され、中学校進学への期待がより高まった。また、この交流会から、新入生オリエンテーション、卒業という流れができ、今後の指導に生かすことができた。</li> <li>・中学生は、自分も昔同じような不安を抱えていたこともあり、親身になって小学生の疑問に対して答えることにより、自身の成長も実感できた。また、中学校の代表、さらには多くの小学生に見られるという意識から自信をもつことができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の不具合を想定した具体的な対応策や代案など準備しておくとい。</li> <li>・今年度は、交流する対象が中学生は生徒会役員のみ、小学生は、6年生全員であったが、質問できるのはクラスの代表者だけであった。今後より多くの児童・生徒を対象にした交流ができると良い。</li> <li>・小学校が2校あるが、1対1の交流であった。(オンライン機器の不安や時間的な制限のため)</li> <li>・機器が整備され、時間に余裕があれば3校同時交流を行いたい。</li> </ul>

## <健康安全部会>

### 【児童生徒の実態】

・基本的な生活習慣が確立している児童生徒も見られるが、家庭の生活リズムに左右される部分が多い。中でも、睡眠においては年齢問わず、夜更かし等による睡眠不足の様子が見られる。先の自粛期間でメディア使用の普及に伴って、拍車がかかり、メディア接触時間の増加に伴う、健康被害も見受けられる。(例:睡眠不足、朝寝坊に伴う欠食、食欲不振や情緒の不安定さ、姿勢の崩れ、視力低下の低年齢化 等)

### 【部会のねらい】

・基本的な生活習慣確立への取組を継続しつつ、不調の要因に直結する睡眠の改善を目指し、メディア教育と連動した保健教育の実践を進める。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	<B> 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度のメディア調査や生活習慣見直しweekの結果を生かし、各校の健康課題に沿った取組を実践する。</li> <li>・家庭への働きかけとして、保健(給食)便りに小中共通の健康課題コーナーを設け、連続した健康作りや意識付けを促す。</li> <li>・保健委員会の児童生徒が作成した掲示物を他校で掲示し合うなど、児童生徒の自主性を促す活動を取り入れる。</li> <li>・保健教育では、健康診断の統計や睡眠とメディア接触に関する調査や分析を生かした指導を行う。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣見直しチェック(week)期間中、姿勢を意識しながら食べる児童生徒の増加が見られた。また、カードのコメントから早寝早起きを意識し、生活習慣を整える意識の高まりが見られた。</li> <li>・保健(給食)便りに小中一貫コーナーを設け、健康課題に沿った内容を掲載したことで、家庭での健康づくりの意識付けとなった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食欠食理由で「起きられない」と回答した児童生徒が、昨年度の7.7%から21.4%に増加。メディアの使用も含めた指導の必要性がある。</li> <li>・生活習慣については、短期間で結果が見えるものではない。次年度は、家庭への啓発活動をより充実させるために、学習指導部および生徒指導部との連携を明確にし継続した取り組みにつなげる。</li> </ul>

## <地域連携部会>

### 【児童生徒の実態】

・昨年度は、地域のボランティア団体や公民館、小中学校が連携を図りながら活動を行うための体制を整備することができた。しかし、小中学生と一緒に活動を行う機会が少なく、活動に参加する児童生徒も限られてしまった。

### 【部会のねらい】

・地域学校協働活動を中学校区に広げ、小中一貫教育と関連させながら目指す児童・生徒像の実現に迫る。また、昨年度実施した活動を継続し、内容の充実や定着を図る。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	<B> 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の読み聞かせ → 11月に実施することで、昨年度よりも多くの中学生が小学校を訪問できるようにする。</li> <li>・作品交流 → 国分寺公民館で実施する中学校の作品展示(10月)に、小学生の作品も一緒に展示し、学習の成果を地域に発信する。</li> <li>・里山活動 → 国分寺跡、国分寺東小で里山活動を実施する。集めた落ち葉で腐葉土作りを継続する。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した活動を今年度も継続することができた。</li> <li>・読み聞かせの活動の後に、アンケートを実施した。小学生からは、中学生に本を読んでもらえてうれしかった、今後も続けてほしいという意見が多かった。中学生からは、小学生が真剣に聞いてくれて読み聞かせのおもしろさに気付くことができたので今後も読み聞かせの活動に参加したいという意見が多かった。</li> <li>・作品交流では、中学校の文化祭で、小学生の作品を展示することで、多くの人に学習の成果を発信できた。里山活動では、地域の里山や文化財を大切にするという共通の目的で、小中学生が活動を行うことができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、読み聞かせの日程が変更になり、読み聞かせに参加する生徒の数は増やせなかった。</li> <li>・里山活動では、小学生と中学生が活動を行う日にちが近く、落ち葉が少なかった。次年度は、日程の調整が必要である。また、国分寺東小で集めた落ち葉を国分寺跡に運ぶのは、負担が大きいため、活動の内容を検討していきたい。</li> </ul>

# 成果と課題

## ◎成果

今年度は、各部会、チームとも昨年度の反省を生かした実践となった。学力向上チームでは、家庭との連携を図った「家庭学習協調週間」、授業研究チームでは、道徳科に焦点を当てた「道徳科の授業の板書の共有」、特別支援チームでは、小中間での連続した指導につなげるための「学校と保護者間における情報交換を通しての相互理解」や「オンライン交流」、児童・生徒指導部会では、子ども未来プロジェクトとしての「オンライン交流」、健康安全指導部会では、「小中学校で作成した掲示物の交流」、地域連携部会では、「読み聞かせ、里山活動、小中作品交流」などを実施した。新型コロナウイルス感染拡大で活動が制限される中ではあるが、どの部会、チームも昨年度より発展した活動となった。今後も、各部会、チームの視点から小中一貫の活動を充実させていきたい。

## ●課題

- ・昨年度から実施できなかった小中の教員による乗り入れ授業や、小学生の体験授業などによる中学校へ進学する際のギャップをなくしていく取組も進めていきたい。
- ・昨年度から各部会、チームの代表者だけで会議を行ったが、全員参加する会議やオンラインでの会議など、必要に応じて弾力的に設定することも考えられる。
- ・子ども未来プロジェクトによる小中の交流を、生徒会や一部の児童生徒だけでなく、より多くの子どもたちが関われるような工夫が必要である。

